

関係各位

愛知県農業総合試験場長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和3年度病害虫発生予報第4号(7月)  
令和3年度病害虫発生予察注意報第4号  
令和3年度病害虫発生予察注意報第5号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-62-0085(内線471)  
ファックス 0561-63-7820

## 令和3年度病害虫発生予報第4号(7月)

令和3年7月2日  
愛知県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	紋枯病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並 7月の気温はほぼ平年並	± ± ±
	トビイロウンカ	やや多い (早い)	県全域	6月の発生量は平年並 6月末までの飛来予測日は多い	± +
	セジロウンカ	やや多い (早い)	県全域	6月の発生量はやや多い 6月末までの飛来予測日は多い	+ +
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	カメムシ類	平年並	県全域	畦畔における6月の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	多い	県全域	6月の発生量は多い	+

・防除対策

[セジロウンカ・トビイロウンカ]

本日発表の「ウンカ類情報第3号」を参考にしてください。

[イチモンジセセリ（イネツトムシ）]

多発時には、若齢幼虫発生時にパダンSG水溶剤、ディアナSCなどで防除しましょう。

・留意事項

一部ほ場でいもち病（葉いもち）の発生が確認されました。今後のほ場の状況に注意しましょう。詳しくは本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参照してください。

除草が不十分なほ場の畦畔の一部で、カスミカメ類が多く捕獲されています。日頃から畦畔の雑草管理を行い、特に出穂2～3週間前には丁寧に除草しましょう。詳細は本日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」を参照してください。

イネ白葉枯病の防除適期は、出穂3～4週間前です。昨年発生が多かったほ場では、防除を行いましょう。詳細は本日発表の「イネ白葉枯病情報第1号」を参照してください。

5月下旬にコムギほ場で捕獲したヒメトビウンカのイネ縞葉枯病保毒虫率は平年並でしたが、保毒虫率が高い地点もありました。ほ場をよく観察し、縞葉枯病の症状を認めた場合は、周囲への拡大を防ぐため、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を行いましょう。防除対策等は、6月17日発表の「イネ縞葉枯病情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない 7月の気温はほぼ平年並	－ ±
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は多い	± ＋
ナシ	黒星病	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ナシヒメシンクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 6月のモモの被害新梢率はやや少ない	＋ －
	ハダニ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は平年並	± ±
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	6月の発生量は少ない 6月の発生ほ場率は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	－ ± ±
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ナシヒメシンクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 6月の発生量はやや少ない	＋ －

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
モモ	ハダニ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温はほぼ平年並	± ±
ブドウ	べと病	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒とう病	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	角斑落葉病	多い	県全域	前年秋の発生量は多い 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	円星落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い	±
	コカガラムシ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

### ・防除対策

#### [ウンシュウミカン・そうか病]

発病した葉や果実は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤などで防除しましょう。

#### [ウンシュウミカン、ブドウ・チャノキイロアザミウマ]

本種は成虫発生ピークが防除適期です。表の発生ピーク予測日を参考に防除しましょう。ウンシュウミカンの防除対策については、6月25日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第3号」も参照してください。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（7月2日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第3世代	7/6	7/5	7/1	7/1	7/6	7/6	7/3	7/4	7/9	7/3	第2世代 7/9
(前年)	7/7	7/6	7/2	7/2	7/7	7/8	7/6	7/6	7/10	7/5	(前年) 7/8
前年差	1日早	1日早	1日早	1日早	1日早	2日早	3日早	2日早	1日早	2日早	前年差 1日遅
第4世代	7/25	7/24	7/20	7/22	7/25	7/25	7/22	7/25	7/28	7/23	第3世代 8/1

各地のアメダス平均気温から予測。7月1日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。前年の第3世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

#### [ナシ・黒星病]

本日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

#### [ブドウ・べと病]

本日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

#### [ブドウ・黒とう病]

発病部位は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。オンリーワンフロアブルやスクレアフロアブルなどで防除しましょう。

#### [カキ・角斑落葉病]

発生を確認したほ場や昨年発生したほ場ではオンリーワンフロアブルやトレノックスフロアブルなどで防除しましょう。

#### [カキ・うどんこ病]

発生を確認したほ場や昨年発生したほ場ではオンリーワンフロアブルやトレノックスフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

果樹の病害の多くは、降雨により感染が拡大します。降雨の合間を逃さず、防除を徹底しましょう。  
モモせん孔細菌病は風雨により感染が広がります。風当たりの強いほ場では特に注意しましょう。

野菜

・留意事項

イチゴ炭疽病の発生が一部の育苗ほ場で確認されています。今後のほ場での発生に注意しましょう。発病が見られた場合、発病株とその周辺の株は直ちに抜き取り、適切に処分しましょう。また、育苗終了まで定期的に薬剤で予防防除を行いましょう。  
コナガは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。収穫残渣は本種の発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。  
オオタバコガは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。ほ場での発生に注意し、適切に防除しましょう。薬剤等防除対策については、5月21日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	白さび病	やや少ない	平坦部	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	白さび病	平年並	山間部	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 黄色水盤、黄色粘着トラップに おける誘殺数が多い	± +
	ハダニ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温はほぼ平年並	± ±
	アザミウマ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数が多い	+

・防除対策

〔キク(露地)・アブラムシ類〕

発生ほ場では、ウララ50DFやコルト顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔キク(露地)・オオタバコガ〕

フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。ほ場での発生に注意し、適切に防除しましょう。薬剤等防除対策については、5月21日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方気象台7月1日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い: 30% 平年並: 30% 高い: 40%

〔降水量〕 少ない: 30% 平年並: 30% 多い: 40%

〔日照時間〕 少ない: 40% 平年並: 30% 多い: 30%